

審査日 (2022 年 9 月26 日～ 8 月27 日)

		加盟町村 (地域)		秋田県小坂町
審査項目		格付評価	格付 (A～D)	格付け判断の基準
		審査員コメント		
審査前提	■田舎としての特徴を持っている事 (基本項目)			
	直近の住民基本台帳上の人口が概ね10,000人以下		該当有り・該当無し	該当することが加入条件。
	地域資源が2つ以上あること		該当有り・該当無し	該当することが加入条件。
	第1次産業が地域の基幹産業として認識されていること		該当有り・該当無し	該当することが加入条件。
	連合に加盟することへの議会の同意がとれていること		該当有り・該当無し	該当することが加入条件。
加盟前提	■「日本で最も美しい村」連合加盟村にふさわしい方針と景観を持っている事 (必須事項)			
	I	連合の長期ビジョンと方向性が一致する長期ビジョンを有している。 もしくは5年以内に策定するコミットメントがある。		第6次小坂町総合計画において、「計画の推進を通じて「SDGsのゴール」に向けて取り組む」と掲げられている。 SDGsとは持続可能な社会を目指すものであり、美しい村連合が目指す将来像との親和性も高い。 また、自然環境に配慮した土地利用、景観保全、循環型社会の形成については、地域を巻き込んだ具体的な方向が示されている。
	II 連合加盟村にふさわしい魅力的な地域資源を有している (地域資源)			
	生活の営みと深い関わりのある景観が存在する事		格付評価	A
	①伝統的なまちなみや統一感のある木造建築がある	【美の基準】 ・村の目印 ・歩く楽しみ ・ほどよい建物の大きさ ・土地から生まれた形 ・自然な材料と職人の仕事 ・暮らしの中の芸術	鉾山の町として栄えた産業遺産が建ち並び、明治の香りが漂うレトロな町並みとなっている。 平成17年には、明治百年通りが国土交通省の「美しいまちなみ大賞」を受賞。以降も住民と行政が一体となって美しい町並みを維持している。 審査では訪問していないが、十和田湖を見下ろす丘に、1930年代の木造建築を利用し天然秋田杉の館、「十和田ホテル」がある。	←この欄に格付け (A、B、C、D) を記入。B、C A：伝統的な統一感 (材質、色調、様式など) のある木造建築のまちなみが集落として完全に (保存状況が良いということ；歯抜けになっていない) 保存されている。 BC：伝統的な木造建築のまちなみがあるが、統一感や集落景観としては改善の余地がある。
	②周囲の豊かな自然環境に根差した里山・里海の生活の営みによって作られた景観	【美の基準】 ・暮らしの営みが息づく場所 ・村の目印 ・日常の暮らしの記憶 ・歩く楽しみ ・ふさわしい色 ・土地から生まれた形 ・土地の植物 ・ふだんの緑 ・里山・里海の風景	●今回審査した中では、葡萄畑が「営みが作り出す景観」の一つ。しかしその面積はまだ小さい。今後10年でぶどう農家が増え、素敵な葡萄畑の景観が形成されていくことを楽しみにしている。 ●審査で訪問していないが、WEB情報収集により農場の菜の花畑、また小坂町評価シートで記述されている「ひまわり畑」。これらはぜひ次回審査で確認していただきたい。 ●十和田湖の景観は神秘的な自然美である。	A：周囲の豊かな自然環境を背景とした、里山・里海の生活の営みによって作られた独自の万人が認める美しい景観が存在し、今も生活の営みにより守られ続けている。 BC：里山・里海の生活の営みによって作られた景観が存在するが、独自性が低く特徴があまりない。社会的経済的理由により景観や周囲の自然環境の存続が危ぶまれている場合もある。
	文化が存在すること		格付評価	B
	①地域に根ざした伝統芸能や歴史的に地域と歩んだ祭礼等が継続している	【美の基準】 ・聖なる場所 ・村の目印 ・助け合い ・人が集まる場所 ・ハレの日	本審査では確認できていない。 小坂音頭は30数年続いている。 小坂七夕祭り	A：地域に長年に渡って受け継がれてきた、独自性が強く文化的な価値が高い伝統芸能や祭りの継続について住民が絡み出て取り組んでいるとともに、全国からの来訪者にも支えてもらっている。 BC：地域に伝えられてきた独自の芸能や祭りがあがるが、その継続について課題がある。
	②地域の素材を活かした食文化や地域が育んだ伝統工芸が存在する	【美の基準】 ・日常の暮らしの記憶 ・自然な材料と職人の仕事 ・地の生む材料 ・庶民の手仕事 ・食に関わる職人	●今回審査では確認していないが、「小坂かつらーめん」が小坂町のソウルフードで約40年前に生まれたものと聞いている。 近年では、ブランド豚である十和田湖高原ポーク「桃豚」をトンカツやラーメン、その他の料理に使用し、町外でも認知度をあげている。地元でもコロッケや弁当等に使用し直売所などでも販売している。 ●小坂七滝ワインは、若い世代が受け継ぎさらに品質を向上させるために頑張っている。ワイナリー内では試飲が可能で来訪者も味見をすることができる。また小坂町では「まずは小坂七滝ワインで乾杯」というユニークな乾杯条例があり、住民に浸透するような試みが進められている。	A：地域に世代をまたいで伝承された伝統素材を活かした独自性の高い、食文化や伝統工芸が存在するとともに、来訪者などよその人にも享受してもらっている。 BC：地域の素材を活かした食文化や伝統工芸が存在するが、課題がある。

◆世襲財産の継承			
世襲財産を保護する公的な規制が存在する 景観保護条例や開発規制などが制定されている	【美の基準】 ・歩く楽しみ ・ほどよい建物の大きさ ・ほどよい便利さ ・里山・里海の風景	格付評価 2014年：小坂町景観条例を制定 風力発電や太陽光パネルなど景観に影響を与える大型のものについては、慎重に検討していただくよう助言させていただいた。	A A:景観条例に加えて広告物規制が整備され、村内には私的な広告看板がない。 BC:景観規制の条例があるが、課題がある。
地域の価値を高め、発展させる努力		格付評価	B
①交通量の一時的又は永続的な制限がある、駐車場の整備されている	【美の基準】 ・歩く楽しみ ・ほどよい便利さ	駐車場は整備されており、イベント時や大型連休などで賑わう時は、交通規制を行っている。	A：世襲財産該当地区への車の乗り入れ禁止とそれを可能とする規模の駐車上の整備ができており、I/Uターンの増加、交流人口の増加などにつながる成果が出ている。 BC：交通量の一時的な制限があり、駐車場の整備がされているが、課題が残っている
②木造建築の保存・復活・活用に取り組んでいる	【美の基準】 ・日常の暮らしの記憶 ・ほどよい建物の大きさ ・土地から生まれた形 ・自然な材料と職人の仕事 ・地の生む材料 ・暮らしの中の芸術	近代化産業遺産については、定期的にチェックと修繕をおこなっている。	A：木造建築を復活・活用した賑わいのある中心街地づくりに取り組み、I/Uターンの増加や交流人口の増加などに繋がる成果が出ている。 BC：木造建築復活、活用に取り組んでいるが、課題が残っている。
③電線・電話線の設置に関する考慮がなされており、ルールが制定されている	【美の基準】 ・歩く楽しみ ・里山・里海の風景	百年通りは電柱の地中化を行なって21年が経つ。	A：電線・電話線の設置に関するルールが制定され、電線・電話線の再配置が実現されて景観価値を高めている。 BC：世襲財産該当地区での電線・電話線の再配置に取り組んでいるが、課題がある。
④全体の色彩や素材に関する考慮がなされており、ルールが制定されている	【美の基準】 ・日常の暮らしの記憶 ・ふさわしい色 ・地の生む材料	景観条例に基づき、ルールが設けられているが色の指定はない。百年通りに関しては私有地がないため個人宅が立つことはない。	A：景観条例等により色彩や素材に関するルールがあり、その適用が進み統一的な集合景観価値が高められている。 BC：自主的な色彩や素材にかんする景観配慮に対する取り組みがされているが、課題がある。
⑤看板の設置に関する考慮がなされており、ルールが制定されている	【美の基準】 ・歩く楽しみ ・里山・里海の風景	百年通りについては、看板や幟が設置されているが、明治をコンセプトに統一感がある。	A：看板や掲示物、のぼり旗の設置を規制するルールが制定され、実効的に景観価値を高める機能を果たしている。 BC：景観を損なう看板の設置に対する規制はあるが、課題がある。
⑥地域で認定されたガイド制度が存在している	【美の基準】 ・歩く楽しみ	百年通り、遊覧船、青空博物館、ふるさとセンターがメインでガイド20名が会員。 高校生に希望を募ってガイド体験も行っている。 課題は、高齢化、専門性があり魅力あるガイドの育成、新規ガイドの獲得。	A：地域で認定されたガイド制度が存在し、持続的で専門性が高く魅力的なガイドが複数活躍しているとともに、継続的なガイド育成の仕組みがある。 BC：地域を案内するガイドがいるが、課題がある。

地域の活力を高め、発展させるための住民の自主的な取り組み		格付評価	B
①植栽や草刈りなど住民の自主的な美しい村づくりの取り組みがある	【美の基準】 ・土地の植物 ・助け合い ・里山・里海の風景	町がサポートを行い、自治会単位で草刈りや芝刈りが行われている。 (緑川地区は3年前から花を植えている。) 車窓からの眺めになるが、芝生が綺麗で草刈りもされていた。 七滝やふれあいセンターなど観光客が訪れる場所は、町との年間契約により草刈りや芝刈りが行われている。	A：植栽や草刈りなど住民の自主的な美しい村づくりの取り組みがあり、地域の景観形成に大きく貢献している。 BC：自主的な住民の植栽や草刈り運動が存在するが、課題がある。
②自主的に運営されている住民活動があり、組織化されている	【美の基準】 ・助け合い ・ハレの日	観光視点では鉄道保存会やまち案内、十和田湖を活用した体験プログラム運営など、様々な取り組みが行われている。 理想としては、これらの取り組みや組織が美しい村づくりに持続的に関わっていただけること。現状は観光面への貢献が大きい。	A：地域の多様な人材による、美しい村づくりに関する住民の自主的な活動が持続的に展開される組織があり、行政がしっかりと支えている。 BC：地域に自主的に運営されている住民活動があるが、課題がある。
③住民活動と行政の活動が連動している	【美の基準】 ・助け合い	指定管理制度を活用しながら行政との連携によるまちづくりを行っている。	A：住民の自主的な活動を効果的に行政が支え、共に当事者として地域の発展に寄与している。 BC：住民活動と行政の一体となった活動があるが、課題がある。
④独自性のある良質な行事が存在している	【美の基準】 ・助け合い ・ハレの日	●「近代クリスマス発祥の地」として、クリスマスマーケットは定着化してきている。コロナの影響で中止していたが本年度から再開の予定。 ●濁川の虫送り（小坂町評価シートより）	A：地域の活力を高め発展させるための、独自性のある良質な行事が継続しており、住民の誇りや愛郷心を醸成する効果が出ている。 BC：独自性のある行事が実施されているが、課題がある。
⑤行事の際に使用可能な屋内、屋外の場所有存在している	【美の基準】 ・助け合い ・人が集まる場所 ・ハレの日	多数存在する。 屋外：中央公園、国際交流広場、小坂町交流センターセバーム 屋内：小坂町交流センターセバーム 康楽館	A：住民が自由に活用できる、使いやすい、地域に根ざした行事の魅力を高める公共の施設が存在する。 BC：住民が使用可能な施設が存在するが、課題がある。
◆経済的自立			
入りを増やし、出を制する、経済的な自立を目指す努力		格付評価	A
①広域連携を含む食、住、エネルギーの地域内の自給を高める努力がされている		●食に関して、休耕田で飼料用米の栽培に取り組み、豚のエサに活用。循環型農法による養豚（ブランドの（桃豚））を展開。町内外で消費されている。 ワイナリーを整備し、地域で育てたブドウを加工、販売できる環境が整っている。 ●年齢制限を行なった若者定住促進住宅を整備し、定住化を図っている ●エネルギーに関しては、建設中の道の駅はバイオマスボイラー。脱炭素の取り組みを行なっていくために準備を進めている。 ●資源循環に関しては、金属リサイクルにとどまらず自動車のシュレッダーダストから得られる熱を回収、排出される蒸気を小坂製錬で発電や温水に利用	A：食・住・エネルギーの自給や地域通貨の導入により、地域内でお金が循環する取り組みがされ、継続的に地域の自給率を向上させる仕組みができていく。 BC：地域内でお金が循環する取り組みがされているが、課題がある。
②美味しい村づくりへの地域をあげた取り組みが展開されている(地域的美食革命)	【美の基準】 ・食に関わる職人	●小坂七滝ワイン： 小坂産山ぶどうを栽培し、ワイナリーで醸造・販売、地域内の飲食店での取り扱い、「小坂町乾杯条例の制定」、全世帯へのワイン購入券配布、イベントでの提供など、行政と地域が一丸となった取り組みが行われている。 ●桃豚：ブランド豚として地域内外での販売、地域の飲食店での取り扱い（ラーメンやトンカツなど）イベントでの提供 それぞれに宿で工夫された料理が提供されているが、ラーメン以外に「小坂町にきたらこれを食べたい」と思わせる美食の開発にぜひチャレンジしていただきたい。	A：伝統的な料理法により地場素材を活かす多様性のある美味しい食が存在し、地域住民の誇りが醸成されているとともに、交流人口の増加など地域経済の活性化に貢献している。 BC：伝統的な料理法による地域資源を活かした美味しい料理があるが、課題がある。
③ツーリズムを支える地域にお金が落ちる宿やレストランの選択肢がある	【美の基準】 ・食に関わる職人	ゲストハウス、ペンション、民宿、ホテル、温泉・・・と様々な価格帯でサービスを提供する宿が多く存在する。 今回宿泊したホテルは、小坂七滝ワインとマリアージュした料理提供やワインの飲み比べなど、宿と食の連携に大きな工夫があった。 このような取り組みが、地域に存在する他の宿にも広がっていくことを期待。	A：それぞれの価格帯に応じて、美しい村連合の志を尊重した質の高い宿や質の高いレストランが複数存在し、交流人口の増加や地域の雇用の拡大など活性化に資している。 BC：質の高い宿やレストランが存在するが、課題がある。
④若者や女性の雇用や起業を支援する活動が展開されている	【美の基準】 ・食に関わる職人	創業チャレンジ事業で行政が支援 ●十和田湖西岸開発合同会社（川又氏にヒアリング） 十和田湖の西岸でのアクティビティ（サップ、カヌー体験など）の提供、芝刈り、イベント、プリンスホテルとの連携、キャンプ対応など、リピーター客を増やしている。 ふれあいセンター内のカフェは、移住者の女性が経営。新鮮な野菜や美味しいカレー、十和田湖をモチーフにしたプリンなど、観光客にも地元の方々にも好評 ポイントは、定着と継続	A：地域で若者や女性の雇用拡大や起業を支える仕組みや活動が複数展開されており、現実的に起業や雇用創出などによるU/Iターンの増加で具体的な成果が出ている。 BC：若者や女性の雇用拡大や起業に取り組んでいるが、課題がある。
⑤地域資源を活かした持続的な地場産業が複数育成されている	【美の基準】 ・庶民の手仕事 ・生業作り ・食に関わる職人	●カルビー社との提携によるじゃがいも栽培（上向地区に畑作センター整備）法人2社と協議会を作って農業法人の畑を借りて町主導で取り組みスタート。 ●ワイン産業の6次化 ●循環農業による十和田湖高原ボーク桃豚」養豚業 ●リサイクル精錬 ●十和田湖ひめすの養殖、ブランド化	A：地域資源を活かした地場産業が複数育成され、具体的に地域の雇用確保など地域経済活性化に貢献している。 BC：地域資源を活かした地場産業の育成に取り組んでいるが、課題がある。

※首長の想いやリーダーシップ、および今後のビジョン展開			格付評価	B	
首長の想いや、リーダーシップが発揮され、今後のビジョン展開が明白であること			美しい村づくりの一つとしてのバイオマスタウン推進に関して、町長が強い信念と方向性を示し、推進のための体制をバックアップ。それによって課を超え横断的な視点から解決策を考える動きが作られた。様々な取り組みが行われている小坂町だが、一番は住民が住み続けていけるまち。そのための次の施策として広大な高校跡地（県の土地）の再利用で高速道路の出入り口の活用について意欲を見せておられました。		
※上記内容では、判断できない点の評価			格付評価	B	
※上記内容では、判断できない点の評価			●コロナの影響で実際の様子は拝見できなかったが、国際交流に熱心に取り組んでいる。 ・廃校（旧七滝小学校）を利用し、活性化センターを整備。※屋内の色彩が可愛い。 ・日本語学校や武道の道場として活用 ●行政側の力も大きい。 美しい村担当者のアテンド力、外部目線を持っていること、細やかなサポート。		
総合評価	格付け評価	B	評価点； 歴史的背景のある街並みを地域と行政が一丸となり守っていることは大きい。 古いものを守り、新しいことにも前向きに取り組んでいる。これで終わりではなくさらに未来を見据えて住み続けるための施策を実行していること。そこに地域循環や自立に向けたプラスの効果が生まれていること。 評価向上のための課題 ・ 美食開発は今後何年かの大きな課題 ・ ワイナリーの位置付けと今後の詳細な戦略（現在、マーケティングが弱い） ・ 小坂町に来たらこれを食べる。というスペシャリティの開発 ・ 見せ方と伝え方の工夫（素晴らしい素材があるけれど、いい商品があるけれど・・・） デザイン面のテコ入れ→例：パッケージデザインなど		
●格付毎の判断基準			A 最も美しい村としての条件を十分に満たしており、全加盟村にとって模範的な状態である。		
模範： A			B 最も美しい村の基本的条件は満たしているが、まだ不十分な分野も一部あるため、更なる格付け向上への改善努力が望まれる。		
許容： C			C 最も美しい村として認められるだけの最低限の条件を満たしているが、不十分なところがまだ多くあり、抜本的な改善のための努力が望まれる。		
			D Cの基準に満たない（または該当がない）		